

「第26回日本水大賞 2024日本ストックホルム青少年水大賞」表彰式

名誉総裁お言葉

2024年(令和6年)6月18日(火)

本日、「第26回日本水大賞 2024日本ストックホルム青少年水大賞」の表彰式が開催され、皆様にお会いできましたことを大変嬉しく思います。そして、本年各賞を受賞される皆様に心よりお慶びを申し上げます。

さて、「水」は、私たちの暮らしを取り巻く自然の中でも最も身近な存在の一つです。

そして、人類のみならず地球上の生命にとって必要不可欠であるとともに、かけがえのない恵みを与えてくれるものでもあります。

いっぽうで、線状降水帯の発生による豪雨などで、水害が毎年のように起こり、水は自然災害をもたらすものでもあることを忘れてはなりません。そして、本年元日には能登半島地震が発生し、断水が続き、今も全ては復旧していません。このことから、生活用水や透析をはじめとする医療用の水の確保が、きわめて大切なことであり、今後の重要な課題であることを多くの人が再認識しました。

また国際連合では、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において、「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」ことを目標の一つに掲げており、水に関わる事柄は地球規模の課題となっています。

このような、水に関わる課題に対応するため、日本全国でも様々な取り組みが行われており、今回の水大賞には、そのような活動をしている団体・個人から80件の応募がありました。COVID-19のパンデミックの中にあっても、活動を途切れることなく進められた皆様に心より敬意を表します。

第26回日本水大賞には「玉川学園サンゴ研究部」の活動が選ばれました。玉川学園では、小学部の理科の授業で珊瑚礁の白化を取り上げたことに端を発し、沖縄のサンゴを守りたいという生徒たちの想いを受け止め、企業や研究者、地域と連携協力しながらサンゴプロジェクトを実施しています。サンゴ礁は多様な生物を共存可能にし、二酸化炭素を循環させるなどの大切な役割を担う、価値ある生態系を構成する一要素です。

その保護のため、学校と生徒が一体となり、地域の様々な組織に支えられながら、サンゴの飼育や移植、研究や広報などを行っていることは、生態系の保全にとって大切な取り組みです。

2024日本ストックホルム青少年水大賞には「青森県立名久井農業高等学校 FLORA HUNTERS」の活動が選ばれました。同校の受賞は5回目になります。名久井農業高等学校は、貴重な水を有効利用する新しい農業技術が求められる中、超音波発生装置を使ってミスト状の水を一日数回だけ根に散布する栽培方法を開発しました。そのことにより、通常行われている水耕栽培よりも少ない水量での栽培が可能になりました。それとともに省エネルギーであるため、水の有効利用とともに気候変動対策にも貢献できるものです。

私たちは、水から受ける恩恵に感謝し、安全で安心することができ、かつ健全な水循環系を礎とした国土と自然を、後世に引き継いでいかなければなりません。本賞が、そのひとつの契機となり、多くの人々がそれぞれの地域で水を守り、水について考える活動を実践していけることを願っております。

おわりに、水に関わる皆様の活動が、日本はもとより世界へと発展していくことを祈念し、私の挨拶といたします。